日刊 動労千葉
81.12.23
No.928
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一-八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人制体」粉砕！

一年間をふり返って 各支部長に聞く

その1

動労千葉の全組織をかけて闘った三月ジェット決戦をはじめ、一九八一年は動労千葉全組合員にとって、まさに激動の一年間でありました。

動労千葉は三月ジェット決戦を勝利的に打ち抜き、そうであるがゆえに襲いかかった権力・国鉄当局・動労「本部」革マルのあらゆる反動攻撃をはね返し、〝労働組合はかくあらん〟と敢然と起っています。

今日、日本帝国主義・鈴木体制が戦争と反動の道を突き進み、軍事大国化・改憲の攻撃を強め、労働運動に対し右翼労戦「統一」による骨抜きを狙っている時、動労千葉は「反合闘争・82春闘と結合した三里塚闘争への決起こそ労働者の進むべき道だ」と、全国の労働者に檄を発しています。

動労千葉の全組合員は、自らの組織と闘いに誇りと確信をもち、一九八二年も断固として闘い抜く決意を固めています。

日刊動労千葉編集委員会は、激動の一九八一年を終えるにあたり、一年間すべての闘いの先頭に起って指導された全支部長の「一年間をふりかえって」の感想文を掲載します。

写真で見る動労千葉1981年 1 ジェット延長阻止 3月決戦ストに決起

3月2日より、動労千葉1300は一糸乱れず5日間にわたるストに突入した。3月4日、当局は「本部」反動分子・土屋一派のスト破りに助けられつつ、助役機関士を投入してスト破壊を策した。3月4日、佐倉機関区での怒りの糾弾闘争。

一人一人が活動家になりともに闘いぬく

銚子支部
執行委員長　宮崎　禎夫

私には、今年一年は今までの43年間のうちでも最も記念すべき激動の一年でした。

新年早々から、臨時大会開催署名にはじまり、菅谷(達)執行部ができ、6月29日の支部臨時大会で解散を決定し、6月29日に動労千葉銚子支部を結成、私達みんなが組合役員の経験の浅い人達でしたが、動労千葉の役員や他支部の人達の暖い応援により第一歩を踏み出しました。

動労千葉二周年レセプション、第六回定期大会、各種のサークルに出席し、みんなの暖いまなざしのなかでの挨拶をさせていただきました。

また、これから、国鉄労働者にとって最も厳しい世の中になるだろうが、一人一人が活動家になり、共に手をたずさえて三五万人体制合理化攻撃、第2マル生などを粉砕し、来年もともに闘っていきます。

動労「本部」革マルとの対決を通し動労千葉の正義性が立証され勝利できる

津田沼支部
執行委員長　山下　幸

われわれは、昨年の支部定期大会で確認した「反合・三里塚」を基軸に、81・3三里塚決戦をはじめ全ての諸闘争を支部組合員総体で貫徹してきました。この一年間の闘いの全ては、81・3決戦ストライキの偉大な爆発と動労千葉の闘いの前進に対する、権力・当局・動労「本部」革マルとの熾烈な闘争であったといえます。

動労千葉の81・3闘争の闘いの渦中で追いつめられた動労「本部」革マルは、コロビ屋・嶋田誠等を使い「6・12暴力事件」を計画的にデッチ上げ、われわれの仲間10名と職場・家族を権力に売り渡し、当局には処分要請を申し入れ、まさに権力・当局への武装親衛隊としての姿を明らかにしたといえます。今日の激動と混迷の時代には、必ず動労「本部」革マルのように、労働者の仮面をつけ、闘う労働者を権力・当局に売り渡し、自から延命するためには、何んでも行うという輩が登場するということはこの間われわれが明らかにしてきたところです。

われわれは、これらと対決することを通し、初めて動労千葉の正義性が立証され勝利することができるという立場で、この一年間の闘いを教訓化し、更に激動の82年階級決戦勝利をもぎとるため、突き進んで行こうではありませんか。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！